

介護と仕事と暮らしの ワーク・ライフ・バランス

男性介護者の実態と企業に期待されること

2014.12.15
立命館大学
津止正敏

平成26年度第8回企業向け人権啓発講座

「パン(経済)とバラ(尊厳)」の日に

- 2009年3月8日(日)
- 京都・立命館大学
- 北海道から九州まで160人

- 152人の「介護体験記」
- この社会に介護の「経験知」を蓄えよう！
- あなたの介護体験を社会の共有財産に！



介護体験記『男性介護者100万人へのメッセージ』の反響

- 「父に贈りたい」(女、東京)
- 「父(91才)も母(87才)を介護している。父にも読んで欲しい」(女、大阪)
- 「父の気持ちが知りたい」(女、松山)
- 「父(91才)と二人で母(84才)介護。父が読みたいため」(女、60才、大阪)
- 「娘の嫁ぎ先でも」(女、佐賀県)

「介護の学習の旅行や集会には出席できない状態である。また話しあう友人も殆ど他界。講演会での医学的な一般的講演も参考になるが、ピンときにくい。体験記を読みそれぞれの貴重な介護体験が心をうち、行く手を明るくしてくれました。辞書のように手近において繰り返し読もうと思っています」

(男、ネット会員、89才、愛媛)

盛況！「ケアメン」イベント

- 東京都社協「介護者団体交流会」 1月13日
- 兵庫・伊丹きたいの会5周年記念事業 2月7日
- 「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」発足5周年記念事業「ケアメンサミットJAPAN」3月8日・9日
- 「荒川区オヤジの会(東京都荒川区男性介護者の会)」発足20周年記念事業 5月3日
- 全国介護者支援団体連合会(仮称・介護者支援ネットワークセンター「アラジン」呼び掛け) 6月28日
- 男性介護ネット山陰ブロック発足(鳥取・島根)10月4日
- 男性介護ネット・同やまぐにネット「介護退職ゼロ作戦」

12月13日

各地の集い





何故、いま家族介護者の組織化が盛況か！？

「手をつなぐ育成会は、1952(昭和27)年、3人のお母さんが知的な障害のあるわが子の幸せを願い、教育、福祉、就労などの施策の整備、充実を求めて、仲間の親・関係者・市民の皆さんに呼びかけたことをきっかけに発足しました」(同会HPより)

→①問題山積分野、②「何とかしなければ」と気付いた人

- 1968年 在宅寝たきり老人実態調査(初の全国調査)
- 1972年 小説「恍惚の人」
- 1973年 福祉元年(～1974年)・老人医療費無料化
- 1979年 『在宅福祉サービスの戦略』
- 1980年 呆け老人を抱える家族の会(現認知症のひと家族の会)発足→介護者組織化の活性化①「モデル化」
- 1985年 在宅痴呆性老人の介護者実態調査
- 1989年 ゴールドプラン10か年戦略策定
- →介護者組織化の活性化②「一般化」
- 2000年 介護保険施行
- 2006年 高齢者虐待防止法施行
- 「介護者支援」を求める世論
- →介護者組織化の活性化③「再モデル化」

「3人に2人が生活不安、一番の悩みは『老後の生活設計』」

(内閣府「国民生活に関する世論調査」、2014年8月23日)

- 全国20歳以上1万人調査(6,254人回答)
- 6月19日～7月6日調査
- 生活に不安:66.7%
 - (1)「老後の生活設計」57.9%
 - (2)「自分の健康」49.7%
 - (3)「家族の健康」41.9%

⇒「介護・介護問題」との深い接点

介護保険15年目の検証 家族介護者視点から

- 「介護の社会化」は本当に進んだか
- 「在宅の介護環境整備」は進んだか
- 介護保険15年目がつくりだした新たな課題は何か
- 「男性介護者」が問うたこと

「介護の社会化」は進んだか？ 介護政策の家族ポジション変遷

- 家族依存(～1970年代)
 - 扶養義務規定、各種サービス利用規定
 - 「家制度」「恍惚の人」
- 家族支援(1970年代～)
 - 在宅福祉、介護激励金、慰労金
 - 「家族が大変」「介護者負担の軽減」
 - * 広辞苑に「介護」(1983年、第3版)
- 本人支援(2000年～)
 - 介護保険、障害者自立支援法
 - 「尊厳ある生活」「自己決定」「自立支援」

「本人支援」ということ

□ 本人支援の積極性

「認知症の本人も苦しんでいる」
「呆けても人間」「幾つになっても発達する」
実践が解明し、実践の指針になった！

＝「希望」・更に前進する

しかし・・・

□ 政策が誘引する「本人支援」の負の側面

圧倒的な家族介護の存在を見えなくする「政策装置」？！

家族介護の抱える課題に無関心にする「トラップ」？！

増える「介護虐待」

□ 平成24年度実態

- ・養護者
通報23,843件
判断15,202件
- ・施設従事者
通報736件
判断155件



やまぬ「悲劇」400件

- 2000年4月～2009年10月(9年6か月)
介護殺人・介護心中400件
殺人59%、心中24%、傷害致死11%
夫33%、息子33%・・・男性3/4

『東京新聞』2009年11月20日朝刊



本人も、家族も、深まる葛藤 —いまの到達点にたつて—

- 介護保険の趣旨:「介護の社会化」を「在宅の介護環境整備」で、という狙い

上記が誘引する介護実態 ↓

- 在宅介護期間の長期化／介護する・される側の高齢化・重度化／家族間の葛藤・紛争の要因拡大
→介護コンフリクトの増大(事件、異議申立、訴訟・・・)

「新しい介護実態」の登場

- (1)「想定外の介護者」の登場
- (2)新しい介護サービスのニーズ
- (3)介護を支える社会政策総体
- (4)介護感情の両価性—新しい生き方モデル—

「新しい介護実態(1)」

〈想定外の介護者〉の出現

男性、老老、認認、老障、障障、シングル、ヤング(孫、甥姪)、別居、通い、複数……

*「若くて、体力もあり、家事も介護も、介護に専念できる時間も、そして介護する規範もある介護者」→「若くも、体力もない、家事も介護も出来ず時間もない、介護者になって戸惑う」介護者！



3月8日国際女性デーの発足

男性介護者の介護実態から考える 男性介護者の増加—その数100万人超

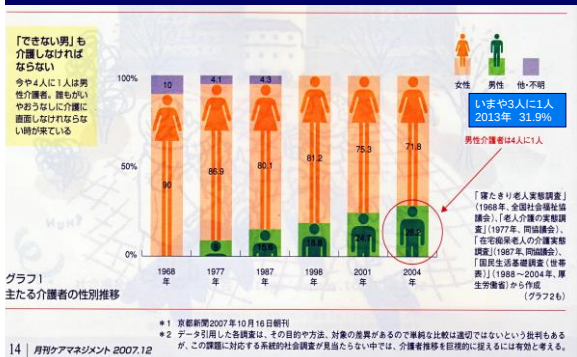


図 同居の主たる介護者の続柄別年次推移



「主たる介護者」を実人員で見る 2013年国民生活基礎調査より

□ 同居 4,119	□ 同居+別居 6,340
1.妻 1,076	1.妻 1,089
2.娘 642	2.娘 1,026
3.夫 596	3.息子 730
4.息子 566	(4.事業者636)
5.嫁 518	5.夫 602
	6.嫁 574

数単位:千人

「想定外」の登場背景 世帯構造の変化—わずか25年で

「65歳以上の高齢者のいる世帯」/国民生活基礎調査から

世帯構造の変化	1986年→2010年→2013年
□ 夫婦世帯	18.2%→29.9%→ 31.1%
□ 単独世帯(独居)	13.1%→24.2%→ 25.6%
□ 三世帯世帯	44.8%→16.2%→ 13.2%
□ 親と未婚の子のみ	11.1%→18.5%→ 19.8%
□ その他世帯	12.7%→11.2%→ 10.4%
□ 高齢者のみの世帯	23.9%→49.2%→ 51.7%

認知症の人と家族の会(2010年9月)

変わる家族と介護

- 1991－1999－2010の比較調査
- 「2人世帯」→0%(91年)から45%に
- 「60歳以上」の高齢介護者→28.5%から58.2%に
- 「嫁」→40%から、12.8%に
- 男性介護者→8.2%から32%に

「新しい介護実態(2)」

- 新しい介護サービスニューズー「制度開発」の動力に！
介護者支援型介護サービス
- * 「就労支援」介護サービス
- * 「家族支援」介護サービス(家事援助等)
- 24時間365日地域包括ケア
- * 認知症ケア脱「身体障害介護モデル」
- * 住まいとケアの関係ー在宅と施設の境界を越境するニューズー
- * 医療と介護の連携

「新しい介護実態(3)」

同時多発的に！派生する「新しい介護問題」の登場

介護と「仕事」、「家計」、「家事」、「孤立」、「事件」・・・介護は「入浴・排泄・食事・移動」だけにあらず。暮らしの丸ごと課題を内包

* あらゆる社会政策が介護にリンクする

〈働きながら介護する人〉

291万人！男性131万人、女性160万人
40代50代が170万人、その4割が男性
雇用者は240万人
全有業(64,420千人)の4.5%、50代後半では10%超
全介護者(5,574千人)の中では、52.2%

〈介護退職者〉

平成19年10月～24年9月：48万7千人
男性9万8千人、女性

働きながら介護している人290万人
(平成24年就業構造基本調査〈総務省〉より)

	総数	40歳未満	40～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
有業者総数(1)	64,420	24,601	14,640	6,363	6,141	6,120	3,201	3,352
介護している有業者数(2)	2,910	319	534	515	619	546	213	160
男女別	男性	1,309	142	216	197	276	113	85
	女性	1,601	176	317	318	343	269	75
(2)÷(1)	4.5%	1.3%	3.6%	8.1%	10.1%	8.9%	6.7%	4.8%

(*)数字単位・万人。千人以下は切り捨てた

認知症の人の「主たる介護者」×就労

	有業者				有業者計	無業者	不明	計
	正社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業				
夫	2.3	0.2	2.3	9.4	14.2	83.4	2.3	100
妻	1.3	0.3	8.9	6.3	16.8	80.5	2.6	100
息子	30.0	2.7	8.6	15.4	56.7	37.0	6.3	100
娘	15.8	1.3	25.0	9.2	51.3	44.9	3.7	100
両親	33.3	0.0	0.0	16.7	50.0	50.0	0.0	100
姉	9.1	0.7	25.4	16.6	51.8	45.0	3.2	100
兄弟姉妹	4.2	0.0	10.5	12.6	27.3	68.4	4.2	100
孫・ひ孫	26.8	2.4	29.3	7.3	65.8	26.8	7.3	100
親	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	88.9	0.0	100
その他の親族	13.8	2.3	19.5	9.2	44.8	49.4	5.7	100
その他	10.5	0.0	10.5	10.5	31.5	47.4	21.1	100
不明	0.5	0.0	0.5	0.7	1.7	2.7	95.7	100
計	11.1	1.0	14.7	8.9	35.7	50.9	12.5	100

日本医療福祉生協連・認知症者介護サービス利用者調査(2012)より

野村総研平成25年度調査

介護者の仕事・働き方

介護者のうち4割弱の人が働いている

- ・うちフルタイムと想定される人自営8.8%、正規職員7.2%。週35時間以上が半数、40時間以上も25%
- ・介護のために「仕事を辞めた」2割超、「勤務形態等を変更した」1割超、「転職した」数%、と全体の1/3
- ・介護休暇等保障されている人4割程度→退職や転職の恐れに連結

「新しい介護実態(4)」

介護は大変、でも辛いことばかりでもない

介護の「負担感」と「喜び」の同時進行→「**両価性**」＝「家族介護」の特徴

「沈みし日も弾む日も」



介護負担と喜びとの関係

	喜びを感じない	喜びを感じる
負担を感じない 58人	28	30
負担を感じる 234人	80	154

介護「する／される」こと

夫婦の年齢を合わせると170歳という87歳の夫の声

□「フラフラの状態です。神経がピリピリしているので、ホンの些細なことで毎日口争いが耐えません。寂しくて悲しくてやるせない。この気持ちを残念ながらどうすることも出来ない。」

□他方では、「一日の介護で心身ともに疲れていても、妻の微笑みを見ると、唯一慰められ、救いのように思えてなりません。」と介護の辛さとは真逆の心境をも語っています。

5年前から認知症の妻を介護している、85歳の夫

□「玄関で倒れこんだ妻を抱き起こそうと力を入れたとき、夫の背骨がボキボキといって、とたんに力が入らなくなった。背骨骨折である」と自身の障害を訴えています。

□「炊事、洗濯、掃除は妻がデイサービスセンターに行っている間にする。時々妻が思い出したように「お父ちゃんゴメンね」というのが嬉しい」

介護する人も！介護される人も！

「介護を排除して成り立つ暮らしや働き方」

ではなく

「介護のある暮らしや働き方を社会の標準に」

「介護のある暮らし」とは

- 豊富な介護の社会資源(介護人材・施設・プログラム)
→「いつでもどこでも誰でも必要な時」の支援
- 質の高い介護処遇(尊厳ある生と自己決定の保障)
→「罪悪感や後ろめたさを背負わない」でいい介護
- 「介護者支援の実体化」: 介護に適合的な暮らし方と働き方(ワーク・ライフ・ケア・バランス)を社会の隅々に
→「介護のある暮らしを社会の標準に」
- 「介護する人／される人と支援者の会」(ケア・コミュニティ)の存在→コンビニの数ほど「会や集い」をつくる支援

介護の社会化・介護の「外部化」

